

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501411		
法人名	社会医療法人 共栄会		
事業所名	グループホーム まいホーム川北 A棟		
所在地	札幌市白石区川北2条1丁目7-8		
自己評価作成日	平成28年12月13日	評価結果市町村受理日	平成29年3月10日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\* ホーム内や外出行事等で、季節を感じて頂ける様に企画しています。  
 \* 町内の行事に参加したり、ホームのお祭り等で、地域と交流できるように努めています。  
 \* 季節を感じて頂けるように、ホーム前の畑で、入居者と共に花や野菜の手入れをしながら育て収穫しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=0190501411-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=0190501411-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成29年2月8日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の閑静な住宅地に建つ、木造2階建て3ユニットの事業所である。運営母体である法人は、多くの医療や介護サービス事業を展開しており、そこで培ったノウハウはサービスの質の向上に活かされている。事業所内は利用者が尊厳を持って過ごせるように配慮しており、各居室には大型クローゼットを完備し、馴染みの小物や写真等を飾り個々の暮らし方を尊重している。前庭には花壇や菜園があり、手入れや収穫は利用者の楽しみになっており、ベンチを設置し日光浴や焼き肉パーティ等に利用されている。また、法人内・事業所内研修を開催し、職員のキャリアアップや介護の実践に役立っている。さらに避難訓練に力を入れており、連合町内会主催の防災訓練や、札幌市危機管理室主催の研修会に参加し、いつ起こるか分からない自然災害に備えている。管理者及び職員は、常に笑顔で利用者と共に過ごす時間を大切に、家族の信頼も厚い。近隣住民との交流も盛んで、利用者の町内会行事の参加や、事業所のホーム祭り・防災訓練には地域住民が参加しており、中学生のでっち奉公や高校生の施設見学も受け入れている。地域密着型として今後も期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき利用者に合ったサービスを職員全員が提供できるように努めている。	『法人の理念と基本方針』、『事業所の運営理念と運営方針』は、玄関ホール等の目立つところに掲示している。さらに各ユニットの『年度目標』も設定し、日々の業務で共有し実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方々にホームのお祭りや避難訓練に参加して頂いたり、町内のゴミ拾い・防災訓練・季節の行事等に参加することで交流を図っている。	町内会行事のコンサート・ふるさと夏祭り・清掃活動に参加し、事業所の夏祭りや避難訓練には地域の人達が参加している。中学生のでっち奉公・高校生の施設見学の受け入れ等、地域に開かれた事業所を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	丁稚奉公や介護実習生・施設見学の受け入れを行っており、その際に認知症について説明し理解を深めて頂けるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行いホームの状況や取り組み等を説明し、頂いた意見をサービス向上の参考にしてている。	2ヶ月に1度定期開催している運営推進会議では、町内会役員・家族・地域住民・地域包括支援センター職員等が出席し、行事予定と報告・地域との交流・防災計画等が話し合われ、ケアサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者会議やケア連絡会議などで情報交換を行っている。また、保護課や介護保険更新時の調査時には入居者様の生活状況を伝えて連携を深めている。	管理者会議・グループホーム協議会・ケア連絡会に参加し他グループホーム職員と交流している。市の集団指導に参加し、行政方針の理解に努めており、全職員は情報を共有し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修の参加、それを元にした勉強会の実施で知識や認識を深め、職員の認識の共有化を図っている。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかっている。身体拘束の禁止については、重要事項説明書に明記している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や、それに参加した職員による報告書の回覧および勉強会での伝達講習で虐待について学び検討する機会を設けており、知識や認識を深める事で虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修が少ない事もあり、理解不足の為、機会があれば学び理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にホームを見学して頂き、その際にホームの説明をし、利用者・家族の疑問・不安な事に対して尋ね、十分な説明を行い理解して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時や電話連絡をした際に、意見を伺ったり、意見箱の設置・アンケートを取るなどしている。また、利用者からは日常会話や本人の様子から希望などをくみ取れる様に努めている。	玄関に意見箱を設置している。利用者家族とのコミュニケーションを大切にし、来訪時の会話や電話で意見、要望を聞いている。家族アンケート結果は、事業所の運営に効果を上げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは日頃から意見を伝える事が出来る環境にある。代表者とは特別に機会を設けていないが管理者を通して要望が伝わるような状況にある。	月1回の全体会議などで職員の意見や提案を聞いている。また、管理者は日常の業務を通じて、積極的に職員の意見や提案を聞き、ケアサービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休については希望を考慮して頂けているが、補充職員の人数の問題もあり有休を思うように取れていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開催される研修の提示を行い、希望する研修を受ける機会を作ってもらえるが、勤務状況等により研修を受けづらい職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などで同業者との交流はあり、サービスの向上に繋がる時もあるが、機会が少ない為、より取り組んでいきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談やセンター方式を使用し、情報を集めて利用者とコミュニケーションを取り、不安な事や要望に目を向け安心して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に説明をした上で要望や不安な事を聞き、また面会時や電話等で話をする機会を設け親密な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状況や、家族も含めての希望を取り入れ、デイケアの利用も含め適切なサービスを利用できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事や、やりたいこと、得意としている事を見極め、生活の中で行い活かせるように支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に関する情報を、面会時や電話・毎月のお便り等で、家族と共有し状況に応じて協力を仰いでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでの面会、電話は何時でも出来るよう支援している。行きたい場所についても、家族と協力し出来るだけ行ける様に支援している。	家族を含め親族や知人の訪問もあり、継続的な交流ができるように支援している。家族と共に墓参りや買い物に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いが円滑に出来る様に、職員が間に入る等したり、孤独にならない様に積極的な声掛けを行う等している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	疾病等で退去された方のお見舞いに行ったり、退去された方のご家族が訪問して下さる事があり、これまでの関係を断ち切らないように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動の中から、利用者の思いをくみ取り希望に添える様に努めている。表現困難な場合は、今までの生活状況を考慮し、また家族と相談するなどしている。	センター方式のアセスメントを活用し、本人本位に検討するようにしている。日誌に日々の状況を記録し、個々の思いや希望を汲み取り、職員間で情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートやセンター方式を利用して、ケアマネや家族・利用者から情報を得るようにして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、個々の様子を記録に残し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とは面会時や毎月のお便りを送付し状況を伝えて、話し合いをしている。職員間でも毎日の情報伝達や毎月の会議時で話し合いをし介護計画を作成している。	定期的な見直しは3カ月毎に行い、身体の変化や利用者・家族の要望を取り入れ、随時見直しを行っている。医師や看護師とは連絡を密にし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人記録を詳細に記入し、連絡ノートも活用しながら情報の共有が出来ており、介護計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族と相談しながら柔軟な支援が出来る様に、また受診・通院等も家族と相談しながら柔軟に対応できる様、支援の在り方を検討しながら実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、地域包括支援センター職員・民生委員が参加し意見交換したり、町内会行事に積極的に参加している。地域の訪問美容を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力を得ながら利用者が希望する病院に通院できる様支援し、普段の状況がわかるように受診表を作成し適切な医療を受けられるように努めている。	利用者希望のかかりつけ医を受診しており、受診連絡票を作成し、事業所での状況を伝えて、協力病院医師の往診や訪問看護なども利用できる。事業所には看護師が勤務している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師なので、気づいた事は、すぐに報告し指示を受けている。また、訪問看護を利用し情報を伝えて病院との連携を図るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書を作成し、情報提供を行っている。また、入院時は面会をし状態の確認、医師や看護師・相談員との情報交換を行うように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期の研修や、勉強会等で知識を得ているが、ホームでは看取りを行っていない。重度化してきた際は、利用者・家族・医師と相談しながら少しでも長くホームで生活出来る様に支援している。	重度化した場合や終末期のあり方については、利用者や家族の意向を尊重し、医療関係者を交えた話し合いを行い、全職員で方針を共有し支援している。終末期に関する研修会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルやAED・窒息時用吸引器具を設置している。また救命講習の受講や勉強会等で訓練し、緊急時に対応できる様な備えをしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、消防署や地域の消防団・近隣に協力頂きながら定期的に訓練を実施している。水害・地震等については机上訓練を行い、合わせて非常時の持ち物を検討する話し合いをしている。	避難訓練は、消防署や消防団の協力のもと開催している。火災以外の自然災害については職員勉強会を開催し、運営推進会議で問題点や対応策を検討している。連合町内会主催の防災訓練に参加している	法人本部に多くの備蓄品を準備しているが、災害時には、交通網や道路の遮断も考えられる。事業所内で数日過ごせるように寒さ対策としての備蓄や、利用者家族の避難場所についても把握し、連絡が付き取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けをする等、気を付けているが、親しみから不適切な声掛けになっている場合もある。	職員は利用者のプライドや羞恥心を大切に、不適切な言動がない対応をしている。個人情報に関する書類は、適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望が表せられるような声掛けや、環境作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースに合わせ、無理強いせず、利用者が過ごしやすいうように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが整えられるよう訪問美容を利用したり、利用者の好みの服装が出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物、苦手な物を考慮して工夫したり、献立に取り入れたり、旬の食材や季節感が味わえるように努めている。また可能な利用者と共に食事の準備・後片付け等を行っている。	利用者の身体状況や嗜好を配慮して、各ユニット毎に作成した献立表に基づいた食事を提供している。誕生日には、何を食いたいかを確認し反映している。畑で収穫した野菜も食卓に上り、利用者が楽しめる食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を毎日記録し、摂取状況の把握に努めている。また、水分・食事制限のある利用者には医師の指示に従いながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや促し・介助にて口腔ケアを行っている。状況により歯科受診に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導等を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、周りの人に気づかれない様に、さりげなくトイレ誘導している。各ユニットに2ヶ所あるトイレは、使いやすく整備され清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の活用や適切な運動等をしたり、必要に応じて下剤の服用・調節を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は可能な限り希望に沿うようにしている。拒否が強い場合は、声掛けの工夫や時間を変更するなどの対応をし、気持ちよく入浴出来る様に支援している。	利用者の希望や体調に合わせて、いつでも入浴できるように支援しており、入浴を好まない利用者には、声かけや日時を変更するなど工夫をしている。羞恥心や尊厳に配慮し、同性介助を基本としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせてながら、状況に応じて休息や安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を管理し、処方内容・用法・副作用について理解している。症状の変化時は、職員全員が把握できる様に記録に残し、受診に繋げる様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意な事、出来る事を継続出来る様に、機会を作り支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日用品の購入等での外出等は希望に添える様にしており、町内の行事に参加したり、外出行事を計画して外出の支援をしている。また、家族に協力して頂き、墓参りや自宅への外出泊ができる様支援している。	心身の活性化につながるよう、一人ひとりの身体の状態に配慮しながら、日常的に近隣散策や、菜園・花畑での作業に参加している。外食や行事外出の機会も多く、利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し使用・管理できる利用者は、現在いないが、買い物の際にレジで支払いが出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使用出来る様にし、また掛ける手助けをしている。手紙が届いた際に文面を読むなど届いたことを一緒に喜ぶ機会を作っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りや、季節に合わせた飾り付けをしている。気温に合わせて冷暖房を調節し、定期的に温度・湿度の確認をして加湿器・空気清浄器も活用している。	居間や廊下は広々としてゆとりがあり、行事写真や利用者の作品が飾られ、癒しの空間となっている。加湿器や空気清浄機を設置し、安心安全に配慮して心地良く過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の配置を考慮し、好きな場所に座り気の合う同士で過ごせる様に配慮しているが、共用空間の中で、一人になれる空間を確保できない事もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具や、人形・飾り物などを置いて、居心地良く使いやすく安全な配置にしている。また温・湿度をチェックし室温、換気などにも配慮している。	居室には自宅で使い慣れた日用品や調度品などを持ち込み、馴染みの品々に囲まれ安心して寛いで過ごせるよう配慮・工夫している。温・湿度計を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで各所に手すりを設置し家具の配置等危険が無い様に安全な環境作りに努めている。また場所がわかるように貼り紙をしたり、自室の名札を利用者が見やすい高さにするなどの工夫をしている。		